



協会情報誌

ふれあい

FUREAI
No. 112
2024 秋・冬

公益財団法人 千葉市国際交流協会

Chiba City International Association

ちば市国際ふれあいフェスティバル 2025を開催!来場者募集

入場
無料!

日時 令和7年(2025年)2月9日(日) 11:00~15:30(予定)

場所 千葉市役所1階 市民ヴォイド (千葉市中央区千葉港1-1)

地域の国際交流・国際協力ボランティア団体による活動紹介やバザーがあります。

また、各団体のステージによる世界の民族音楽・舞踊などを披露するほか、キッチンカーによる国際色豊かな食べ物の販売もあります。

入場無料で、予約不要、出入り自由です。皆様気軽にお越しください。



主催: ちば市国際ふれあい
フェスティバル運営協議会
共催: 千葉市

…… 目 次 ……

- P1 ちば市国際ふれあいフェスティバル
2025開催
- P2~3 令和6年度 上半期事業報告
青少年交流事業、交流サロン等
- P4 千葉市国際交流協会 事務所移転等
- P5 団体の紹介
多文化フリースクールちば、
センシティ土曜にほんご学級
- P6 協会基本情報、
賛助会員・広告募集

協会HP



令和6年度 上半期事業報告

(1) 青少年交流事業

① アメリカ・ヒューストン市派遣及びカナダ・ノースバンクーバー市派遣

ヒューストン市派遣期間: 2024年8月14日~8月25日

ノースバンクーバー市派遣期間: 2024年8月5日~8月20日

2024年8月の夏休み期間中、アメリカ・ヒューストン市に中学生4人と引率者1人、カナダ・ノースバンクーバー市へは、高校生4人と引率者1人を派遣しました。

両市に派遣された派遣生たちは、現地の家庭でホームステイをしながら異文化体験を積み、貴重な経験をしました。

彼らはそれぞれのテーマに基づいた研究を現地で行い、その成果と体験を10月2日(水)に開催された帰国報告会で発表しました。生徒たちにとって、異国の文化に触れるとともに、自ら設定したテーマを探究することで、視野を広げる有意義な機会となりました。



アメリカ・ヒューストン市派遣



カナダ・ノースバンクーバー市派遣



10月2日に行われた帰国報告会の様子

派遣生の感想

- とても楽しく、新鮮で貴重な経験をすることができました。すべてがキラキラと輝いていて、私の中で一生の宝物となりました。
- 家族なしの上、海外でホームステイなんて無理!とと思っていましたが、実際に行ってみたら普通の海外旅行では出来ないこと、行けない場所などたくさんの経験を積むことができました。
- この経験を勉強に生かしていくことは当然のことだが、生かすということより、これが出発点となり今後海外に進出したいと思う機会になった。
- 今までの夏で一番濃い夏を過ごすことが出来ました。これからもたくさんの中高生がこの派遣事業を通して唯一無二の体験ができることを強く願っています。



派遣生及び引率者の感想の他、研究テーマをまとめた帰国報告書を当協会のホームページからご覧いただけますので、左のQRコードを読み取ってご覧ください。

② カナダ・ノースバンクーバー市受入

千葉市での受入期間: 2024年8月6日~8月20日

来業者: カナダの高校生4人、引率者1人

滞在内容: 親子三代夏祭りにて「はな神輿」や「千葉踊り」に参加、千葉中央ライオンズクラブ行事として千葉中央博物館見学、納涼会にて三味線体験、千葉の郷土料理「太巻き祭り寿司」料理体験、千葉市長・市議会議長表敬訪問、千葉都市モノレール車両基地見学など



親子三代夏祭りにて神輿担ぎ体験



神谷市長と千葉踊り

来業者の感想

- 最初は言葉の壁が大きな問題になると思っていたが、お互いの考えやニーズをうまく伝え合うことができました。むしろ、言葉が違うからこそ、お互いの文化や生活について好奇心を持ち、質問することができたのだと思います。
- ホストファミリーの皆さんと一緒に過ごした時間すべてが素敵な思い出です。日本のホストマザーとシスターへ、ありがとうございました!
- 親子三代夏祭りでは日本の本物の伝統と祝祭に浸ることができました。神輿担ぎや千葉踊りに参加できたことは、素晴らしい文化体験でした。千葉の皆さんとも交流ができて、とても楽しかったです。



千葉都市モノレール車両基地見学

受入家庭(令和元年度千葉市派遣生)の感想

- 家族と一緒ににおにぎりや味噌汁を作りました。カナダでも味噌汁を作るため、本人の希望もあり、本場の「だし」の作り方を教えました。とても喜んでいて、「だし」の材料をお土産に持って帰るほどでした。改めて日本語や日本文化について学ぶことができ、非常に興味深く楽しかったです。
- 外向的な性格のカナダ派遣生を受け入れて過ごすうちに、自分自身もその姿勢に影響を受けているのを実感しました。二人で恋バナや色々な話をしてお互いを深く知り、楽しくて、今までの人生で一番の夏休みになりました。
- 一緒にお墓参りや祖母に会いに行くなど、日本での生活を一緒に楽しく過ごしました。帰国日には空港で手紙とともに涙のお別れをしましたが、改めてこの事業に参加できたことを嬉しく思うとともに、これからも続いてほしいと願っています。

(2) 千葉市外国人留学生交流員の活動紹介

今年度から初めて、留学生交流員の地域行事への参加機会創出のため、町内自治会の行事に参加することとなりました。企画や実施に参加することで、留学生交流員に地域社会の仕組みを学んでもらうと同時に、地域の行事の活性化並びに自治会メンバーや地域住民との交流を通じた相互理解の促進を図っていきます。

【地域活動参加実績(7月~11月)】

- 第36地区(幸町)
 - 盆踊り大会** 運営の方と一緒に焼きそば作りやくじ引き受付 7月27日
 - 金曜ふれあい市** 設営・販売手伝い、高齢者の買い物支援 9月6日
 - 秋季防火・防災総合訓練** 配食訓練担当、防災対策情報交換 10月27日
- 第19地区(稲毛)
 - 第1回 稲子祭** 実行委員会メンバーとして企画参加 9月21日
- 第38地区(稲浜)
 - ファミリー運動会** 事前会議出席 10月13日、運動会にて運営支援 11月3日

その他、協会事業として親子三代夏祭り「千葉踊り参加」、専門学校主催DASHAIN祭り「防災かるたワークショップ支援」、日本語交流会にて発表をしました。



夏祭りにて焼きそば作り



福引手伝いにて地域住民の方と交流



ふれあい金曜日

留学生交流員の感想

- 昨年から千葉市に住んでいますが、知り合うのは大学内のコミュニティメンバーがほとんどでした。今日の金曜ふれあい市での皆さんとのやり取りや、運営スタッフの皆さんと一緒に仕事することが楽しかったです。
- 地元の盆踊りチームメンバーに加わった際に、偶然、同郷の千葉大学出身女性と出会い、お話することができました。自分と同じ大学を卒業して、地域の一人となっている先輩と話ができたことはとても貴重な体験でした。
- 運営スタッフの皆さんが優しく教えてくれ、仲間に入れてくれたことが嬉しかったです。年配の男性がとてもよく話しかけてくれたので、こちらも気兼ねなく、楽しく話すことができました。
- 数千人の住民が夏祭りに集まってきていることに、とても驚きました。年配の男女、子供と一緒に参加する家族、外国人、若者たちといった幅広い層の方が一緒に楽しむ機会となっており、とても良い行事だと思いました。その一方で、地域における高齢化やコミュニティの希薄さなど共通する課題を抱えていることも、活動を通して知ることができました。

(3) 交流サロン

① 第8回日本語交流会(外国人による日本語スピーチ等)

10月19日(日)千葉市国際交流プラザにて開催しました！
 今年の日本語交流会は、事務所が移転したことから新しい場所での初開催となりましたが多くの方にご来場いただきました。
 発表は日本語スピーチの他、日本の歌を発表する外国人の方もいらっしゃいました。来場した皆さんは、日本語交流会にて6年ぶりに実施した交流会にて外国出身者と一緒に語りあいました



発表者とボランティアで記念撮影



発表者による日本語スピーチ

発表者感想

- 最初は緊張していましたが、次第に楽しくなりました。これからも日本語と日本での生活を頑張りたいと思います。
- 様々な国の文化を発見できて楽しかったです。また、自分の好きな歌を披露できたことも嬉しかったです。
- 最初は緊張しましたが、皆様が温かく発表を聞いてくださり、嬉しく思いました。今回の経験を通じて、さらに日本語の上達を目指して頑張りたいと思います。



和やかな交流会の様子

② 国際交流ハロウィンパーティ

千葉市役所1階の市民ヴォイドにて、10月25日(金)夜に千葉市と千葉市国際交流協会のW主催で「国際交流ハロウィンパーティ」を開催しました。
 大勢の方が集まり世界の料理や音楽演奏を楽しまれ、多種多様な国籍の皆さんが参加していたことから、日本語だけでなく様々な言語で会話の花を咲かせていました。今回でハロウィンパーティは2回目の開催となりましたが、大好評でしたので今後も恒例行事となりそうです。



職員も皆で仮装

③ CMBデザイン&国際交流フェスティバル2024に参加

開催日：10月12日(土)
 場所：千葉市中央公園
 デザインまつりは、秋の収穫を祝うネパールでは最も大きいお祭りで、主催する千葉モードビジネス専門学校生徒をはじめ、市内在住のネパール人を中心に多くの外国人と日本人が参加しました。
 当協会も千葉市国際交流課とともに出展し、外国人の来場者に向けた防災クイズを実施し、災害時の備えについて学ぶ機会を提供しました。
 なお、おまつりの会場には、伝統的なモモやセルロティ(ネパール風ドーナツ)などといったネパール料理のブースが並び、来場者が異国の味を楽しむ機会となりました。また、ネパールの民族舞踊や音楽のステージが披露され、華やかな衣装と力強いパフォーマンスが来場者を魅了しました。



防災かるたにて真剣にカードを選ぶ外国人参加者



大盛り上がりステージ

(4) 語学講座の報告

- 初級英語サロン 6月5日～ 7月24日 全7回(6/26は休み)(対面)
 - ステップアップ英語サロン 10月9日～11月27日 全7回(11/6は休み)(対面)
 - 世界一周体験講座 10月5日～11月 9日 全5回(10/19は休み)(オンライン)
- 初級英語サロン、ステップアップ英語サロンでは、会話表現など実際の日常生活で使える様々な表現を基礎から中級レベルまで幅広く学びました。また、アイルランドの文化を英語で紹介し、楽器演奏やダンスも楽しみました。
 世界一周体験講座では、ジャマイカ、韓国、ベトナム、台湾、メキシコについて、音楽や食、他にも現地での流行など一推しの情報について紹介しました。



英語サロンの授業風景

(5) 日本語クラスの報告

生活者を対象とした日本語クラスを開催しています。
 週2回のクラスに参加している人、週1回自主学習スタイルのクラスで学習している人、今年度前期開催クラスでは約150人が自分の希望や都合に合わせて日本語を学習しました。
 また、「[にほんごで はなすかい]」という日本語クラスでは第1期のテーマを地域活動として太極拳や子ども食堂等の方と話しながらコミュニケーションの実践をしました。



自主学習をする参加者(グループ学習クラス)



救命講習を日本語クラスの中で体験(初級クラス2)

千葉市国際交流プラザ・千葉市国際交流協会 事務所移転のご案内

協会情報誌 前号の「ふれあい111号」ですすでにお知らせしたとおり、千葉市国際交流協会(千葉市国際交流プラザ)は、令和6年9月2日に事務所を移転いたしました。

新しい所在地は、千葉銀座通り沿いの「フジモト第一生命ビルディング2階」です。移転後は、市役所や千葉駅中心地域から少し離れてしまいましたが、外国人市民およびボランティア皆様のご来訪を歓迎いたします。千葉市内における外国人市民の増加に対応するため、協会はこれからも地域に根ざした多文化共生社会の実現に向けて取り組んでいきます。

新しい拠点では、これまで以上に外国人市民のサポートやボランティア活動の充実を目指してまいります。皆様のお越しをお待ちしております。

住所: 〒260-0013 千葉市中央区中央3-3-1

フジモト第一生命ビルディング2階

TEL:043-306-1034 FAX:043-306-1042

***電話番号及びFAX番号が変更となっております**

アクセス: JR千葉駅から徒歩10分、京成千葉中央駅から徒歩6分、

千葉都市モノレール葭川公園駅から徒歩2分

開館時間: 月曜日～金曜日 9:00～20:00 土曜日9:00～17:00

日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)は休みです。



広々とした会議室



1対1日本語交流スペース



この建物の2階になります



こちらを目印にお越しください

社会生活に役立つ「千葉市日本語学習プログラム」が始まりました!

eラーニングシステム(オンライン)で、いつでも、どこでも、日本語が学べます。是非、お知り合いの方にご紹介ください。

参加費: 無料(このプログラムに連動したスクーリングに参加する場合は別途費用がかかります)

対象: 千葉市在住・在学・在勤

内容: オリジナル教材「わたしを伝える日本語」を中心に千葉市生活情報等、生活場面でのやり取りに役立つことばや表現を学びます。今年度のプログラムはA1(日本語教育の参照枠:基礎段階の言語使用者)を目標にした内容です。

お申込はオンラインでも出来ます。

プログラムの詳細は協会ホームページで紹介しています。

協会ホームページ内「オンデマンド日本語学習プログラム」またはこちらのQRコードからご覧ください。



「NPO法人多文化フリースクールちば」及び「センシティ土曜にほんご学級」のご紹介

今回ご紹介する2つの団体は、いずれも外国出身の児童・生徒を対象として日本語や学校の勉強、また高校受験のサポートをしています。今までは千葉市国際交流プラザを両団体とも使用して活動していましたが、当協会の事務所移転にともない活動場所を千葉県教育会館別館へともに変更されました。

多文化共生社会に資する活動を続けてこられている両団体にインタビューしましたので、ご紹介いたします。

【インタビュー内容】

- 1 活動の経緯や目標
- 2 外国出身の子供たちの出身国や背景
- 3 子供たちに教える内容
- 4 活動場所の変更が与える影響について
- 5 課題や今後の目標
- 6 その他 メッセージなど



1・2・4階を利用して活動しています



新たな活動拠点となった千葉県教育会館 別館

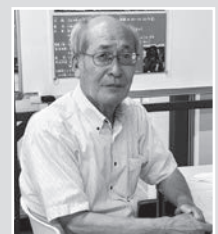
NPO法人多文化フリースクールちば

- 1 多文化フリースクールの活動は、2002年に日本語を母語としない親子の進路ガイダンスから始まりました。当初は中学生向けの進路情報提供が中心でしたが、2010年頃から日本語能力が不十分で高校に進学できない学齢期超過の生徒たちの増加に伴い、学びの場を提供する必要が生じました。この課題に応える形で、2014年に多文化フリースクールちばを設立しました。活動の主な目的は、中学校を卒業し学ぶ場のない子供たちに居場所と学習の機会を提供し、日本語を学んで高校進学へのサポートを行うことです。彼らが社会的に孤立しないよう、学力向上と進路支援を目指しています。

- 2 生徒の出身国は東アジアや南アジアが多く、最近ではアフガニスタン、スリランカ、ネパールからの生徒が増えています。経済的や政治的背景により日本に来た、主に中学既卒生の15才から18才までの子供たちが通っています。

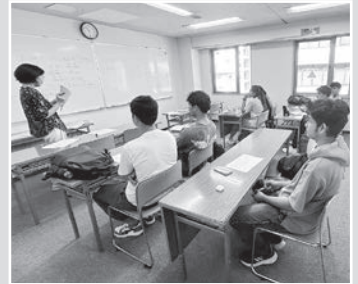
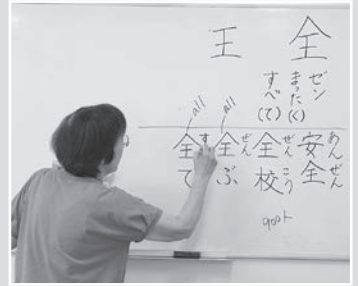
- 3 日本語授業は、月曜日から金曜日までの1日4時間行い、生徒の日本語能力に応じたクラス分けで進めます。1クラスに3～4人の先生が担当し、継続的な指導でこれが日本語習得のためには重要だと考えています。

また、高校入試が近づくと数学や英語の授業も週1回実施し、11月以降は受験対策として作文や面接練習も行います。特に1月からは面接準備が重点的に行われます。



お話を伺った
スクール代表の白谷さん

- 4 9月から有料の場所に移転したことで、家賃負担が発生し、資金面の課題が増加しました。また、コロナ後の入会希望者急増の緊急対応として待機生クラスも設けていますが、その活動場所の確保が難しくなり、どう運営して行くかが問われています。
- 5 日本語指導が必要な子供たちの数は急増しており、スクールのクラスもすでに満杯の状態です。さらに、10月からの待機生クラスは週3回の授業を行います、それもすぐに定員に達してしまいました。十分な日本語力がないまま高校に進学しても、学業についていけず途中で退学してしまう可能性が高いため、1年間の日本語習得の期間を設けることで高校の授業にもついていける力をつけるのが目的です。
- 6 スクールとしては、今後も日本語を学ぶ機会のない子供たちを支援していくことが不可欠だと考えています。子供たちは日本での生活を通じて日本語を学びつつ、母国語も大切にして、その能力を最大限に発揮できるような環境作りが必要です。彼らが日本社会で成功するためには、言葉の壁を乗り越えるためのサポートは欠かせません。スクールでは、現在も日本語指導のボランティアを募集しています。特に、日本語指導の資格を持つ人や教員経験者を求めており、生徒に寄り添った専門的な指導ができる人材が必要とされています。まずは、生徒に対する愛着を持ってもらうことが重要だと考え、ボランティアには長期的な視点で参加を呼びかけています。

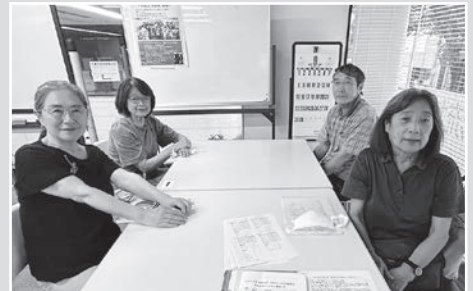


センシティ土曜にほんご学級

- 1 「センシティ土曜にほんご学級」は、1999年に千葉県国際交流協会(当時)が開催した夏の「サバイバル日本語講座」に参加した子供たちの「もっと日本語を学び続けたい」との声に応える形で、土曜日に学ぶ教室として2005年11月からスタートし20年目に入りました。この教室の主な目的は、日本語が不自由な外国に繋がる子供たちに学びの場と居場所を提供することです。日本語に親しみ身に付けることで、彼らの学校生活の向上や社会的な孤立を防ぎ、将来に向けたスキルを身に付けてもらうことが目標です。当初、大人向けの日本語教室はあったものの、子供向けのものはほとんど存在しなかったため、この学級が外国出身の子供たちにとって大きな意味を持つことになったと思います。
- 2 子供の出身国は中国、フィリピン、タイ、モンゴル、アフガニスタンなど多様です。これらの子供たちは、日本語がほとんど話せない状態で来日し、学校でも友達ができにくいことや、授業についていけないことが多いため、この学級は子供たちにとって貴重な学びの場となっています。通っている子供も小学生から高校生までの幅広い年齢層がいます。
- 3 日本語支援は、ひらがな・カタカナから始め、学齢に応じたクラス分け(小学生、中学1・2年生、受験生(中学3年生+既卒生)、高校生の4グループ)で来日時期の違う子ども達ひとりひとり個々のペースに合わせて学習を進めています。教科書の音読や宿題、英検や日本語能力試験のサポート、高校受験対策として教科、作文、面接時の受け答えも支援しています。また、日本文化を体験するための季節の行事や講師を招いての工作、科学館への社会科見学、お楽しみ会も行っています。支援ボランティアのスキルアップ講座も外部講師に依頼して設立から続けています。
- 4 教室は9月から有料の場所に移動したため、運営コストが増加し、活動場所の確保が課題となっています。
- 5 教室のスペースが限られているため、十分な学習環境を提供するのが難しく、現在も場所探しが続いています。活動場所の確保の他、ボランティア不足が大きな問題です。特に若い世代のボランティアの参加が少なく、今後の運営において子供たちへの指導者の育成が重要な課題です。
- 6 行政が外国に繋がる子ども達への教育支援をより強化し、学校で放課後に日本語教室を設けられるような体制が理想です。これにより、現在のように土曜日に特別な教室に通う必要がなくなり、学びの場が広がります。将来的には、本学級の本来目指している日本語支援にとどまらない、イベントや日本文化に触れる機会も増やし、楽しみながら学べる教室作りを進めていきたいと思っています。



設立者(現相談役)の田中氏



お話を伺ったのは写真左から
澤野さん、代表の片桐さん、工藤さん、三浦さん



両団体のインタビューを通して

両団体は、日本語を母語としない子供たちにとって大きな役割を果たしているだけでなく、地域社会全体に対しても、多文化共生の重要性を示しています。今後も、行政を含めた地域の支援とボランティア皆様の協力を得ながら、外国に繋がる子供たちが安心して学び、成長できる場を提供し続けることが大切だと感じました。

編集・発行

公益財団法人千葉市国際交流協会

〒260-0013 千葉市中央区中央3-3-1 フジモト第一生命ビルディング2階

TEL **043-306-1034** FAX **043-306-1042**

E-mail ccia@ccia-chiba.or.jp



HP



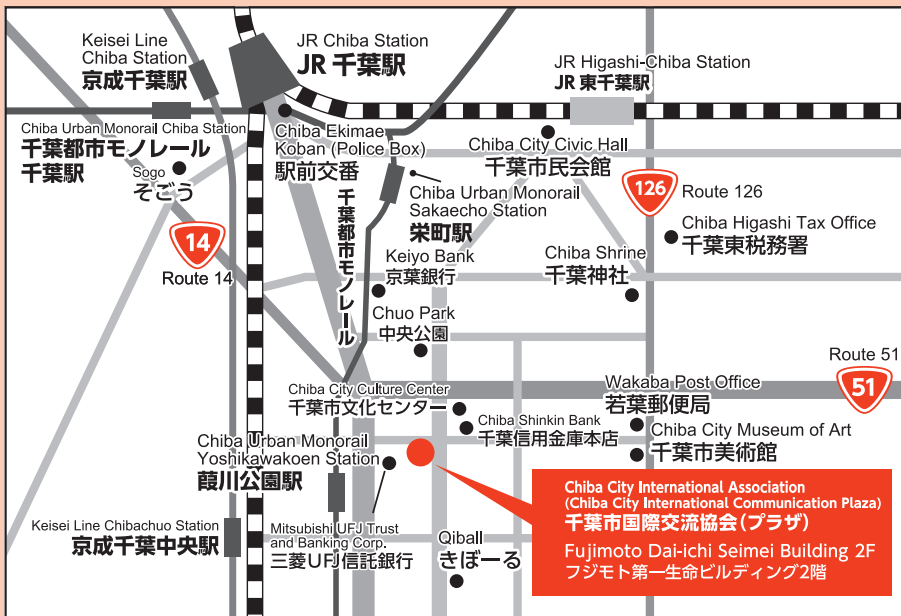
facebook



地図(MAP)



LINE外国人相談



誌面上のQRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

賛助会員募集

会費

学生・外国人会員: 1人 1,000 円より/半年
個人会員: 1人 2,000 円より/年
団体・法人会員: 1団体・法人 10,000 円より/年

特典

- ①協会情報誌「ふれあい」の送付
- ②協会主催有料講座の受講料割引
- ★団体・法人会員の場合、5名様まで
- ②の割引対象となります。

申込・お支払い



ホームページからお申込みいただけます。
また、便利なクレジットカードでのお支払いもできるようになりました。
【賛助会員年会費クレジットカード支払いについて】
これまでは、お支払方法といたしまして、銀行振込・振込用紙での支払・窓口での支払からお選びいただいておりますが、令和6年8月より便利にご利用いただけるクレジットカード決済を導入いたしました。
ぜひご活用ください。
(決済可能クレジットカード: VISA, Mater, AMEX, JCB)



賛助会員申込 (個人)

協会情報誌「ふれあい」のバックナンバー

インターネットなら、最新号からバックナンバーまで読むことができます。また、協会のことので分かる「パンフレットもありますのでご覧ください。」



協会情報誌「ふれあい」



パンフレット

広告募集

協会情報誌「ふれあい」に広告を出しませんか?

次号は令和7年4月発行予定!
年3回各回3,000部発行しています。

費用 1単位5,000円(サイズ縦45mm×85mm)

配布先例 千葉市国際交流協会賛助会員、各区役所、コミュニティセンター、公民館、千葉市美術館、千葉市生涯学習センター、図書館ほか

なお、千葉市国際交流協会のホームページ及びFacebookに掲載します。